KSKS 花の会ニュース

２０２３年４月号
no.196

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB　https://hananokai.info/　★E-mail　hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２－２　東興ビル４階　定価１００円

花の会 ミニバザー のお知らせ

日 時 ： 2023 年 5 月 20 日（土）
１０:３０ ～ １３:３０
場 所 ： 共働舎花の会敷地内、ほか
※ 市営バス「南平台三丁目西」バス停下車すぐ
※ 当日は混雑が予想されます。コロナ感染対策のため、マスクの着用をお勧めします。
※ **予約は必要ありません。**

◇お問い合わせは、下記へ。
第 2 共 働 舎 花 の 会
〒569-1042　高槻市南平台３丁目 29-10
電話：072-697-7033
E-mail：hana-dai2@orion.ocn.ne.jp

花の会 「総会」のお知らせ

日 時 ： 2023 年 6 月 24 日（土）
１０：００ ～ １１：３０
場 所 ： 高槻現代劇場
3F レセプションルーム
主 催 ： 社会福祉法人 花の会
※ コロナ感染防止にご協力ください。
議案
- 法人・事業所、事業報告・計画、決算・予算
- 新「花の会後援会」総会

一般の方のご参加も、お願いします。

「個別」から「地域」へ

花の会が40周年を迎える。メンバーを支える支援者の育成は、どうなっているのか。何故、職員同士、仲良くなれないのか。仲良くなくても共有の目標に歩調を合わせられないのか、を書いてみようと思ったが、表題の「地域」への視点の話に変更する。

40年は、自身を振り返っても十分長い時間である。「共に」を標語に取り組み、たくさんの支援者が通過していった。現在も頑張り続ける支援者もある。私たちが関われるメンバーや家族さんは多くなってきたが、マスとしては小さく。制度や政策を変えるような力は持ち得ていない。内に向けての共同体的な連携も希薄である。支援者にはどのように見えているのだろうか。

事業が増え、異なる専門性も多様化している。福祉を業界、業種と捉えて働く人も多くいると思われる。事業所とメンバーと支援者の日常のサイクルの中で、「対象者」や「支援職」「相談職」といった立場性から、各個の事業の内側に目が向かざるを得ない。個々のメンバーの想いとその支援を突き詰めて考えれば、社会や制度といった普遍性にぶつかると想定されるが、そのような事態にも支援者が悩んだり、取り組んだりすることも、稀でしかない。

近頃は重層的支援体制整備事業とかの制度を超えたというよりは、制度の狭間に対する支援も重要な地域課題とされるようになってきた。しかし、実際は「ハザマ」の方たちだけの問題ではなく、地域で困られている方たちとのスクラムをどう組むのかが問題です。「障害」の分野が、地域と切り離され、分けられてサービスを受けるという枠が問題です。この枠という壁を乗り越えたい。そのための日常の支援はどうあるべきか。地域という視点を活動の重要なファクターとして意識して取り組まないと、井の中の蛙から脱却できない。

皆さんはどう感じておられますか。

（やまだのかかし）

「お話、聞かせて」

白石　朝子さん
卓也さんの母

白石　朝子さんのプロフィール

◉1987 年から高槻市在住。1993 年から花の会の活動に参加。
◉息子の卓也さんは、合計３社 25 年近くー般企業で働き、今はワークたんぽぽ（就労継続支援Ｂ型）にグループホームから毎日通う生活をされています。

白石 朝子さん

今回は、白石卓也さんのお母さんにお話を聞いてみたいと思います。白石朝子さん、花の会では理事長も経験されています。

Qお母さまが約 80 年間生きてこられて、大切にしてきた考えってあるでしょうか？

白石：安保闘争の頃からかなぁ。なんでも反発したくなるの。反骨？いや反体制かな。でも、そんな話をしても面白くないでしょ。卓の話抜きで話すこともできないし。

Qでは、卓也さんの子育てにからめて、反骨、反体制をテーマにいかがでしょう？

白石：そうねぇ。吹田の幼稚園に卓が行っていた時に、園舎に入らず運動場や鳥小屋で遊んでいてね。見た目は元気な子だったけど制御ができない。

それで、5、6 歳の時に病院の精神科でカナータイプの自閉症と診断されたの。医者からは「みかけほど軽い子ではない」と言われたわ。それから、プレイセラピーやスピーチクリニック、教育大の学生さんに家庭教師をやってもらったり、必死だったわ。

Q必死というのは？

白石：親の想いとして、将来、社会に出ていくために、できるだけ普通の人がやれることをできるように訓練させたいと思っていたの。やれることがたくさんあることの方が生きていくために有利だと思ったから。卓はご飯を食べる時も手づかみだったから、「箸で食べなさい！」ともう格闘よ。今だったら虐待で通報されてもおかしくないくらい、卓と格闘していたわ。なんで私の子が自閉症、障害児やねんという想いもあったわ。そうそう、医者からは、まるごと受容しなさいと言われたのよ。でもいきなり受容できるわけないじゃない。何でも受容していいのか、相当考えて、受容することと、受容しないことを決めたの。好き嫌いは受容するけど、手づかみで食べるのは許さないとかね。

Q今の卓也さんはワークたんぽぽでみんなのスリッパをそろえてくれたりして、すごいしっかりされていますけど、そんな時代があったんですね。小・中学校ではどうでしたか？

白石：転勤族だったので名古屋の小学校が長かったんだけど、やっぱり普通学級に行かせたいという気持ちが強くて 2、3、4 年と普通学級にいて、運動会の練習でクラスの子が 20 人くらい家に遊び

息子の卓也さん

にきたりして面白かったわ。でも、４年生の担任が「私では面倒みきれない」「普通学級にいる意味ない」と言われ、最後は「白石君だけ特別対応できない」と言われたの。そこまで言われたら、この学校にいる意味はないと思って、特殊学級のある隣の小学校に転校したのね。卓はお友達と離れ離れになっちゃったけど、学区が同じだったので中学でまた一緒になって、よく中学の養護学級に遊びにきてくれたみたい。

Q中学卒業後はどうされたのですか？

白石：中学３年の４月に吹田市に引っ越したんだけど、受験を控えていたので、みんなピリピリしていたわね。嫌がらせもあったわ。当時、障害児も普通高校に行こうという高校全入運動があって、私もその運動に乗ろうとしたんだけど、卓が「高校は勉強が難しそうだから行きたくない」って言い出したの。

私はいよいよ社会人としての自立を目指さないといけないと思い、職安、職業センター、児童相談所と相談に回って、結局、できたばっかりの摂津にある訓練校、くすのき園の木工科に入ることになったの。

Qそこから当時としてはめずらしい障害者雇用でアルミ鋳物製造会社に就職されたんですね。ぜんぜん花の会の名前が出てこないですけど、花の会との関わりは、いつからあったんですか？

白石：アルミのバリ取りの仕事を卓はしてたんだけど、４年半働いて会社の経営が悪くなり、仕事を辞めることになってね。当時、私はボランティアを別の作業所でしてたんだけど、氷室町にある花の会の話を聞いて、行かせることにしたのよ。当時は職員の中川さんと一緒に箸袋を作っていたみたい。

Qここで花の会と接点ができたんですね。まだまだお話を伺いたいのですが、紙面の都合上、そろそろまとめないといけません。最後に、お母さんにとっての人生の転機について教えてください。

白石：うーん、卓を普通に近づけたいと思って、社会に適応できるよう必死にやってきたし、できるだけ不自由なく、できることを増やしてきたわ。でも限界がある。限界が見えて、これが障害なんだなと思えたことが転機になったのかなぁ。この子が偉いと思ったのは、高校は勉強が難しいから行きたくないと言えたこと。そういう判断ができると思えたのが偉いと思ったわ。

長時間、ありがとうございました。

編集後記

インタビューを依頼した時に、「何も話すことないわよ！取材拒否！」と言われて冷や汗をかきましたが、３回にわたりワークたんぽぽにお越しいただき、たくさんお話を伺うことができました。息子さんが社会に出ても困らないように、なんとかしないといけない。反骨、反体制の奥には暖かい愛情を感じました。

（取材：ワークたんぽぽ　成瀬　修）

「お話、聞かせて」

采女　直子さん

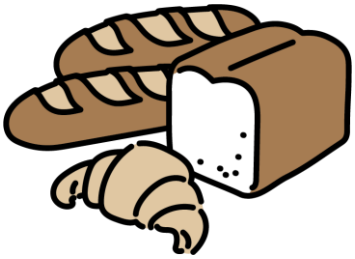
はなみずき　はなＢ班

采女　直子さんのプロフィール

- 地元の幼稚園、小・中学校、高槻養護学校（現高槻支援学校）高等部卒業
- 麦の会（福祉作業所）、スイートピー（福祉作業所）を経て第２共働舎花の会へ
- はなみずきの開所に伴い、はなみずきに異動
- グループホームにて生活、週末は自宅に帰られます

Q「はなみずき」でどんな仕事をしていますか？

采女：パン作ってます。レーズンの計量や（パンの）袋詰め。



Q仕事は忙しいですか？

采女：忙しいです。今日はＡさん(ワーカー)休みやから、Ｂさん(ワーカー）としたから、忙しかったよ。「桜餅パン」作ってるから。

Q新作のパンですね。この前食べました。

采女：おいしかった？

Qおいしかったです。

采女：また、買ったらいいよ。

Qぜひ、買います。たくさん作ってください。

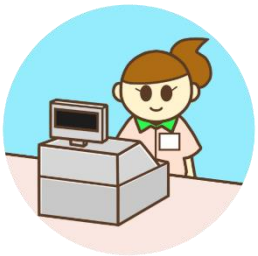
采女：他のも作ってるよ。チョコクリームパン作ってるよ。

Q一番好きな仕事は何ですか？

采女：洗い物。ボールとか。配達は木曜日や。

Qどこに配達に行っていますか？

采女：店舗。「こすもす」。



Q他にやりたい仕事はありますか？

采女：販売行きたいよ。

Qぜひ、行ってください。「行きたい」って自分で言えるかな？

采女：言えるよ。

Q「はなみずき」の前は、どこで働いていましたか？

采女：「第２共働舎花の会」やったよ。パンやってたよ。第２共働舎花の会に変わった時、Ｃさん（ワーカー）がコップをくれてうれしかった。Ｄさん(ワーカー)、手の指ケガして大変やった。

Qそんなことがありましたね。大変でしたね。

采女：山口さんとコーヒーゼリー売りに行った。学校に行った。

Qそうそう、支援学校に売りに行ったね、「スイートピー（福祉作業所）」の時かな。あの時、采女さんたくさん売ったね。

采女：うん。

Qじゃあ、今までで一番好きな仕事は何ですか？

采女：さをり。「麦の会」でやってた。

Qさをりが一番楽しかったんですね。
お休みは、家（自宅）に帰っていますね？何をしていますか？

采女：自分の携帯でYouTube聞いてる。音楽ずっと聞いてる。亡くなったテレサ・テンとかスピードの曲とか。日曜日、カラオケ行ったよ。30曲歌った。

Qカラオケ大好きですね。カラオケはガイドさんと一緒に行ったのかな？

采女：うん。次４月に行くよ。

Qいいですね。グループホームのことも教えてくれますか？

采女：今２人だけ。Ａさんと２人だけ。Ａさんが時々怒る時ある。仲直りせえへん時もある。（昨日のグループホームでの出来事を説明される）

Qそんなことがあったんですね。Ａさんに言った方がいいですか？

采女：うん。

Qわかりました。山口からも言ってみますね。

采女：はい。

Q最後に、みなさんに言いたいことはありますか？

采女：hana・hana（はなみずきの店舗）のパンを買いに来てください！

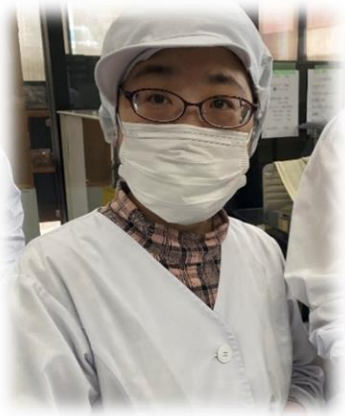
インタビューを終えて

采女さんに原稿の確認をお願いしたところ、ルビを付けたいとの提案があり、今回はルビ付きとなっています。読みやすくなったでしょうか？
采女さん、ありがとうございました。

（取材：共働舎花の会　山口　由美子）

バッグシーラーでパンの袋詰めをしています

店舗（hana・hana）の前で



お店・サイトに来てね。
待ってま～す！！

アレルギーに配慮したパン・菓子の店
hana-hana

ご注文・お問い合わせ　：　TEL ０７２－６６９－８５３２

社会福祉法人花の会　はなみずき

〒569-1042　大阪府高槻市南平台３丁目２８－１５

※ ホームページを開設しました。こちらからご注文いただけます。

◉店舗受け取りご希望の方は、テイクアウトのページをご利用ください。

◉芥川商店街の店舗「**こすもす**」でも販売しています。

☎072－681－9202
高槻市芥川町２丁目８－22

職員の声・支援への思い

古谷　由紀子さん
あさがおクラブ　支援者

古谷　由紀子さんのプロフィール

- 花の会　入職８年目。
- 現在あさがおクラブのワーカーとして勤務されています。
- 休日の趣味はお子さんとテニスをされたり、漫画を読んだり。
- 一週間の息抜きは「お昼寝」だそうです。

Q花の会に入職したきっかけを教えてください。

古谷：入職は 2016 年で、初めは「さくらクラブ」に入ったんです。

放課後等デイサービス（以降“放デイ”）というものを知ったのは、介護職員初任者研修を取ろうかなと思って勉強していた時がきっかけでした。テキストのほんのちょっとのページなんですけど、放デイのことが載ってたんです。それ見て、「こんなとこ知らんかったなー」って思って。

放デイを知る前は、特に子どもと関わる仕事を目指して探していたわけではないんですけど、放デイを知ってからは、自分の子どもを育てていく中で、子どものためにもなることを勉強できるかな、という気持ちもありました。

「機会があれば働いてみたいな」って思ってたら、ちょうどその一週間後くらいにさくらクラブの求人が載ってたんです。「どうせがっつり働くなら、正社員がいいなー」とも思ってたら、たまたま正職員の募集で。さくらクラブは自宅からも近いし、タイミングが良かったんです。縁がありましたね。

Qあさがおクラブはどんなところですか？

古谷：児童発達支援と放課後等デイサービスです。利用されている子どもたちの年齢は３歳～18 歳です。

異年齢の子どもたちが一緒におやつ作りや戸外活動等をしたり、長期休みでは少し遠くに出かけたりしています。

普段はそれぞれ来る時間が違うので、歳が離れている子ども同士で関わることっていうのはあんまりないんですけど、長期のお休みは、一緒に過ごすタイミングも増えるんですよ。例えば車に乗ってみんなでどっか行く、ってなった時に、「シートベルトできひん…」って幼稚園に通っている子が言ってたら、中学生のお姉ちゃんがさっとやってくれたりとか。そういう場面はすごく助かります。

Q仕事でどんなことが楽しいと感じますか？

古谷：子どもたちってまだまだ可能性がいっぱいあるんで、見ていて成長がはっきり分かることはすごく楽しいです。

あと、ふとした会話がすごくおもしろいんですよね。

利用者の女の子のカバンを持ったらめっちゃ重たかったから、「重たー！何が入ってんの？」って聞いたら、「夢と希望が詰まってんねん！」っていう素敵な答えが返ってきたりとか(笑)。

お正月明け、自分がすごくテンションが下がっ

てて、「はぁ…」って思いながら仕事に来てたんです。そんな日に送迎に出てたら、ある子が「お！俺このマンション知ってるー！」って言ったんです。「これ、俺の女の家のマンションやねん！」って(笑)。そんな一言で、思わず笑ってしまって。正月疲れも一気に吹き飛びました。ちなみに後でお母さんに聞いたら、ただの友達の一人のお家だったみたいなんですけど。そういう日常のおしゃべりで元気をもらってます。

あと、利用している子どもたちの中には、ここに来ることが恥ずかしいと思っている子もいるんですよね。あんまり他の友達に知られたくないから、ここに来る日は「塾行く」って言ってたりとか。本人が友達と一緒に歩いている時とかは、その子もあえて視線を合わさないようにしているから、なるべくこちらも視線を合わさないようにする時もあるんです。たまたま下校時間にその子と外で会った時、「友達といるなー」と思って見てたら、友達が階段を下りて行って、姿が見えなくなったんです。このタイミングやったら大丈夫かなと思ってちょっと手を振ってみたら、めっちゃ大きく手を振り返してくれてたり…。逆に気にしない子は全然気にしてなくて、友達３人くらいで歩いてたから、あんまり声かけたりしない方がいいかなって思ってたら、向こうが一生懸命手を振ってくれてたこともありました。

そういう姿を見てると、やっぱり「やってて良かったな」「嬉しいな」って思いますね。

Q 仕事でどんな時が大変だと感じますか？

古谷：自分がどう思っているのかを周りにうまく伝えられない子も、あさがおクラブにはいますので、どうしてあげたらいいんかなっていうのは日々悩んでいます。

調子が悪い時もあって、そういう時は「さっきの声かけはここが良くなかったんかな…」とか、「どういう風にアプローチしたら良かったんかな」とかをよく考えるんですけど、いまだに正解は分からないです…。でもいろいろやってみるしかないな、と思ってます。

例えばお子さんによって、視覚優位の子には、落ち着かなかったら文字や絵カードで説明してみたりしても難しい時があります。

マニュアル通りにはやっぱり行かないです。やっぱり一人ひとり考えていかないといけないことなんだなって思います。

Q 今後の目標について教えてください。

古谷：個人としては、支援についてもっと勉強していきたいです。

この仕事って花の会に入ってからしかやったことがないので、まだまだ学びを深めていかないといけないのかなと思ってます。あとは、急に走り出したりしてしまう子もいるので、体力と瞬発力はつけていきたいと思ってます。

児童部門としてだったら、各事業所で連携していけたらと思います。実際これまでも児童部門の会議やイベントで連携はしてきたんですけど、「こういう場合どうしたらいいかな？」とかの相談も、事業所を越えてみんなで気軽にできるようになっていけばいいなと思います。

後　記

子どもたちとの会話や出来事、日々のあさがおクラブの様子について、本当に楽しそうに話されていて、子どもたち一人ひとりとの関わりを大切にしていらっしゃることが、お話を通して伝わってきました。

また、色々な支援方法を試行錯誤されてきたことも印象的です。

支援に対しての熱い姿勢に、私もとても刺激を受けました。

（取材：田淵　彩子）

森田（もりた）　政之（まさゆき）さんを偲んで

第４共働舎花の会（スイートピー）とGH（さくら）をご利用の森田政之さんが１月１８日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

森田さんとの思い出

「今日何すんの？」「朝ご飯おいしかったわ～」が聞かれなくなって３か月が過ぎました。スイートピーの大黒柱的存在兼宣伝部長だった森田さん。何事にも一生懸命で正義感が強く、頑固な一面もありましたが、ワーカーにとっては彼の発言や行動がとても刺激になり、いつも隣で「しっかりしいや」と叱咤激励されてるようでした。とにかく責任感が強かったので、自分の仕事はしっかりやり遂げる森田さん、かと思えば、忙しそうなワーカーの姿を見つけてはこっそりお茶を用意してくれたりと、優しい気配りも見せてくれました。本当にその存在の大きさに感謝しきれないくらいです。

そして、森田さんは好奇心旺盛で、イベントやお祭りごとも大好きでした。計画を立てるのが大好きで、「フリマに行って買い物したい」「夏祭りでかき氷が食べたい」「誕生日会の後に花火をしたい」と、いつも目をキラキラさせて話してくれました。なので、今でも“これしたいやろな～”、“これ森田さん好みやなぁ～”と思わず想像してしまいます。作業だけではなく、毎日の活動に意欲的で、全力で生きている森田さんが羨ましく、誇らしくもありました。ワーカーも森田さんに負けてられないと、何とか森田さんの期待に応えたい、森田さんを楽しませたい、そう思う日々でした。

まだまだ、夢半ばのスイートピー。森田さんの残したモノを大事にして、森田さんの遺志に応える活動は続きます。

（スイートピー　黒田　哲）

太田がグループホームのさくらに勤務し出した頃、初めは森田さんとどうしたらコミュニケーションが取れるのか分からなかったが、太田がプロレスをしていることを知り、太田に「チャンピオンになってなぁ」と言われ、森田さんの誕生日会までにはベルトを持って来ると約束をしたが、負けてしまい取れなかった。一緒に過ごすことでコミュニケーションも取れるようになり、森田さんの誕生日会の時、太田に「花火大会がしたいなあ～」と言われたため、上司に相談をし、他ホームと合同で花火大会、そうめん流しが実現。１つ夢を叶えられた。その時の森田さんの嬉しそうな顔は忘れられない。そのことが森田さんに言えなかった。

誕生日会では太田がプロレスのコスチュームを着てお祝い。その時、お祝いに来ていたワーカーに「太田さんやで」と正体を言い大笑い。その時もベルトを取って見せてと言われた。次回の誕生日はベルトを巻いてお祝いをすることを約束した。ベルトを取り、森田さんに取ったことを報告すると「太田さんは強いんやで～」とさくらのメンバーにも言っていた。これで２つの夢を叶えられた。

太田が他ホームに行き、時々さくらに勤務になると、自然と世話人室に来られ、配食がない日は一緒に夕食の買い物に行き、好きなメニューを選んでいた。太田が他ホームからさくらに戻ると、初めは太田のことを怖がっていたが、日に日にコミュニケーションが取れ、ガイドがない日はアクアピアや図書館に行き、楽しそうにしていた。好きなメンバーが他ホームに変わり違うメンバーが来ると、初めは受け入れられない様子だったが、コミュニケーションが取れると弟の様に可愛がって、一緒にいる時間が多くなった。

太田がプロレスを辞めたことを話し、子どもがプロレスラーになったことを伝え写真を見せると、「可愛いなあ～、１回、見てみたい」と言われ、写真をコピーするとチューをし、お茶目な所があった。土曜日の夕方、子どもとさくらに行くと、子どもに「頑張りや、応援してるで～」と言われ、恥ずかしそうに「握手しても良いか」と言って握手をしていた。

コロナで制限がかかり、行きたい所に行けなくなった。森田さんが「映画館に行きたい」と言われ、太田がホームに映画館を作ると約束。太田が勤務の時、メンバーが帰宅する前にプロジェクターを用意して、森田さんに映画を見ようかと言ってＤＶＤ鑑賞。森田さんに「ありがとう」と言って貰え、３つ目の夢を叶えられた。

12 月中旬に血液検査の結果から体調がよくないことがわかり、救急搬送してもらい、入院することになった。一度は退院するも検査すると再入院することになり、１月 18 日の朝、他界したと所長から連絡があった。嘘であって欲しい。森田さんにまだ叶えてないことがたくさんある。〇〇さんと結婚、バスの運転手、自身の誕生日会でもう一度花火大会、プロレスを見てサインを貰って一緒に記念撮影。その夢が、、、、。

急いで病院に行くと先に来ていた世話人が案内し、眠っている森田さんがいた。森田さんの思い出が頭に浮かんで泣いてしまった。その時、森田さんから「太田さん、泣いてるで～」と聞こえ(た気がして)、思わず「鬼も泣くんや」と言ってしまった。森田さんはさくらでリーダーシップをとってくれた。世話人を助けてくれてありがとう。メンバーとも仲良くしてくれてありがとう。森田さんともっと思い出を作りたかった。何もできなかった。こんな世話人でごめんね。

（フラワーホーム　太田　利之）

森田さんとは約５年間（実質２年半）一緒に生活させていただきました。

今振り返ると、彼と過ごした素敵な時間は、まさに花の会の掲げるスローガン「共に学び、共に働き、共に生きる」を共にした時間だったように思います。一緒に笑って、泣いて、考えて…。本当に楽しい時間でした。今、彼に言葉を伝えられるとするならば、「有難うございました」です。

私は彼を尊敬していましたし、まだまだまだまだ未熟者ですが、彼からたくさんのことを学ばせていただきました。残念ながら早目に天に召されましたが、彼の残された功績は花の会全職員のかけがえのないものになったと考えます。

「人の死は皆の脳裏から存在が消えた時」と言います。そういった意味では、森田さんは私の中では今でもこれからも生存されています。

私も彼のようになるべく日々精進してまいります。

これまで森田さんに関わってくださったすべての方、そして「森田政之」さんに心より感謝を申し上げます。「ありがとうございました」

（フラワーホーム　坂口　寧）

児童通所支援の報告

みんなの学校上映会及びインクルーシブ教育を考える講演会開催について（前編）

４月１５日（土）、「（映画）みんなの学校」上映会と、インクルーシブ教育を考える講演会が、高槻城公園芸術文化劇場南館トリシマホールで開催されました。主催は高槻事業所連絡会（後援：高槻市、社会福祉法人高槻市社会福祉協議会）で、花の会（あじさいクラブ、あさがおクラブ、さくらクラブ）も、会の一員として、企画運営に参画しました。

昨年４月 27 日に発出された「文科省通知」について、聞かれたことはありますか。特別支援学級に在籍する生徒は、授業の半分以上を支援学級で学ぶように求める内容で、保護者や教育現場に動揺が広がりました。これは障害のある子の分離、隔離を促進する制度で、高槻市が大切にしてきた「共に学ぶ」理念から乖離したものではないか？その答えは、障害者権利条約に関する国連による日本審査により、明確になりました。総括所見により「障害児の分離教育の廃止」そして「分離教育を中止しインクルーシブ教育の権利を実現していく国の計画をつくること」と勧告され、４月 27 日通知については、問題性を指摘。通知の撤回について言及されました。この問題は、「共に生きる社会」の実現を目指す福祉現場においても大きな問題であり、企画推進の大きな要因の１つになりました。

特別支援学校は増加、また支援級、通級を利用する児童数も増えています。国は「インクルーシブ教育を推進している」とし、障害児を分離するのではなく、学びの場を選択できるとしているのですが、そうなのでしょうか。

今回は、「みんなの学校」を上映（まだ見たことが無い方は、是非１度ご鑑賞を！）。そして、木村泰子さん（大空小学校初代校長）、一木玲子さん（東洋大学客員研究員）、佐々木サミュエルズ純子さん（わくわく育ちあいの会代表）が登壇、「インクルーシブ教育」について掘り下げていただきました。（次号に続く）　　（さくらクラブ　平田　昌史）

2023 年度　年間計画について

長きに渡り「行動制限」を強いられた新型コロナウイルスとの戦いも、光が見え始めました。５月８日からは２類から５類に分類されることになり、街行く人も少しずつではありますが、マスクを着用していない方も目に留まるようになりました。交流行事を自粛せざるを得ない時期が続きましたが、2023 年度は感染の広がりを注視しながら、再開していきます。

具体的には、年度末からスタートさせた、ご家族同士をつなぐ「交流の場」の定期開催。事業所間（あじさいクラブ、あさがおクラブ、さくらクラブ）の交流イベントの実施。コロナ感染拡大前（約３年前）に１度実施した幻の行事「オータムキャンプ交流会（野外交流会）」の実施などを計画しています。

「繋がる」そして「楽しむ」企画を計画していきますので、ぜひご意見をお寄せください。

（あさがおクラブ　山口　昌亮）

就労相談支援の報告

～ ファミマ　フードドライブ について ～

「子育て支援　タイム」では、株式会社ファミリーマート様との契約により､「ファミマフードドライブ」協力店舗に設置された回収箱に集まった「食品」を、子どもを始めとする「食」の支援が必要な方々へ提供させていただいております。

直接店舗にお持ちくださった一般のお客様からの「もったいない食品（カップラーメン、缶詰，嗜好品、調味料等）」が、必要な方々の手に渡り、ご利用に繋がる｡「タイム」はその橋渡し役をさせていただいているところです。開所時間を待って受け取りに来られる方もあり、“助かります”というメッセージを頂戴しています。

大阪府「食」の支援事業から､子ども食堂への今後の直接の支援は今のところ聞いておりませんので､地域でこのような活動が広がっていくことを願ってやみません。

子育て支援　タイムでは、毎週火曜日･金曜日の 10 時～12 時で居場所活動を行い､毎月最終月曜日の 16 時～18 時に子ども食堂を実施しています。

（子育て支援　タイム　湯之上　秀子）

～　高槻市重層的支援体制整備事業　とは ～

改正社会福祉法の施行により、令和３年４月の創設、高槻市では令和５年度から実施予定となっています。

簡単にまとめると､『社会的孤立』『育児と介護のダブルケア』『8050 問題』等、複雑化・複合化したケースに対応するために、市町村が包括的な支援を行う仕組みを作れるよう設けられた、国の任意事業とのことです。

流れとしては、例えばアセスメント等で障害と高齢両方の支援が必要な課題があった場合等、分野外の相談があった場合に、①高槻市役所が定めた『つなぐシート』を作成（本人の同意が必要）。②それを推進員（高槻市は社会福祉協議会のケースワーカーを想定している）に手渡し、内容を共有。③相談内容を整理･調整し、適切な支援機関をピックアップし、他機関共同推進会義の出席を依頼。④重層的支援会議を行い、協議・支援を行う。といった取り組みになる見込みです。

※現時点ではまだ決まっていないことも多くあります。市は毎年度評価・見直しをして組み立てていくとしています。

この事業で今までつながりにくかった障害や高齢、児童などそれぞれの支援がより複合的にできるようになると思われます。相談支援事業所として関係機関と連携を図り、皆様の希望する生活が送れるようお手伝いができればと思っています。

（相談支援センターあじさい　杉山　正人）

法人の報告

理事会・評議員会の報告

３月 19 日（日）に理事会・評議員会を開催しました。

新年度に向けた事業計画や予算、管理者の変更、第３期中期計画、グループホーム整備計画、高槻市障がい者庁内職場実習サポート業務の受託、経理規程の変更、40 周年事業実施案などの議案について承認をいただきました。

報告事項は、法人監査の結果、農地の非課税申請、第２共働舎花の会改善計画について報告しました。

６月には決算理事会、理事・監事の改選、定時評議員会を予定しています。

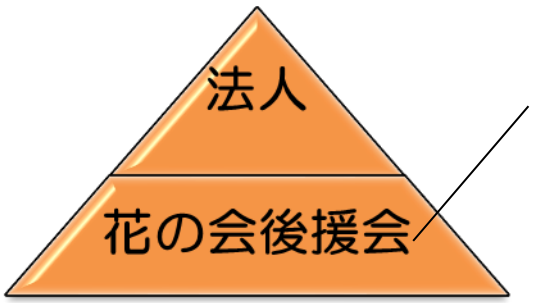
（業務執行理事　成瀬　修）

任意団体「花の会」と「花の会後援会」統合して再出発

1983 年にスタートした任意団体「花の会」は、今年で創業 40 周年を迎えます。この節目の年を機会に、任意団体「花の会」は「花の会後援会」と統合して、新たに再出発することになりました。既に、昨年６月の「第 39 回花の会総会」において、花の会会員の皆様から統合に関してのご承認はいただいていますが、2023 年４月より「新花の会後援会」を発足します。６月 24 日（土）、これまでの「花の会総会」は、法人の主催する全体の集まりとなり、これまでの「総会」の名称を今回は、ひとまず使うことになりました。その終了後に 2023 年度の「後援会総会」を開催いたします。

これまで任意団体「花の会」は無認可作業所の運営母体としての役割を終えた後、2017 年に策定された中期計画をベースに主にはメンバー家族の高齢期問題への取り組みなどの活動に取り組んできました。また「花の会後援会」は地域の皆様からのご協力をベースに、映画会や南平台敷地の花壇整備などで法人花の会をバックアップしてきました。両団体ともに法人花の会が新規事業開設をする際に財政的支援を続けてきた経過もあり、法人の基盤を支える役割をしてきました。

統合して再出発するにあたり、これまで両団体が歩んできた思いを継承しながら、法人花の会が地域で中心となってメンバーの豊かな生活を実現するために、新花の会後援会がどう支えていくのか、大きな課題ではありますが、会員の皆様地域の皆様と共に協力していきたいと思います。　（花の会後援会事務長　牛嶌　亮）



法人事業への支援（資金協力等）を行っています。
地域の皆様のご入会とご協力をお願いします。
年会費　１口 3,000 円
問い合わせ：共働舎花の会　電話 072-692-2859

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円